midorinodam.jp

NPO法人
緑のダム北相模

March 2012 No.328-329

５月号の１枚：嵐山でみつけたゼンマイ

［巻頭言］ 森林を守る活動者は、神の領域の事業の代行者である

自然を裏切る行為があれば、自然はあなたを決して許さない

森林には全く素人だったから１５年前、聴講生として林学基礎を東農大の宮林研究室で学んだ。その翌年の１２月、先生に同行して頂いて相模湖町・町長を訪問した帰路、夕暮れの霙降る相模湖駅ホームで先生は「石村さん、森の事業をするなら森を裏切らない覚悟を決めなさい。自然を裏切る行為があれば、自然はあなたを決して許さないでしょう」と話された。

事業の関係で1987年～1991年までの4年間、韓国に住んだ。この間、「韓国有機農業環境研究会」の会員として同会に所属した。渡韓2年目の真夏、ソウルの「可楽洞市場：カラクトンシジャン」での3日間の農業合宿に参加した。この会の名誉会長は、ソウル大学総長の「柳達永：ユンダルヨン」博士であった。柳先生の基調講演の中心課題は「当会に所属する農民は、神の事業の代行者である」であった。

この合宿前に唐辛子王（コチュカルワン）と言われていた韓光沢（ハンクワンテック）さんを訪ねた。朝鮮東山脈南西部の斜面に唐辛子農場があって、その農場の真ん中の牛小屋に牛と同居していた。唐辛子とも牛とも、何もかも自然に溶け込んだ自然のままの生活であった。だから、柳達永先生の話は良く理解できた。

森林・林業の基本を教えて下さった宮林先生と韓国農業を指導する柳先生の教えは一致する。勿論、自分たちが〝神の領域の事業の代行者"だと言うそんな重い･自惚れた考えを持っている訳ではないが森林の恩恵を考えるとき、自然と頭を下げたくなる事象に度々出会うのだ。

石村　黄仁（本会、代表理事）

今月の定例活動

2012.05

5月 6日（第一日曜日）：
小原本陣の森/森林整備、担い手育成、技術向上。
持続的森林経営：弁当持参。参加費：４００円

5月20日（第三日曜日）：
若柳・嵐山の森/里山交流、多様な森林活動。
主食・自分のお椀・箸・飲料水は持参。参加費：４００円

FSC
www.fsc.org
FSC® C006376
責任ある森林管理のマーク

[定例活動]小原本陣の森

4月1日（第一日曜日）

季節はあっという間に過ぎ、気が付けば活動に参加してから約一年。僕たち新二年生も山の中で一つの季節を過ごした、ということになります。そんな感慨深いこの日は、日に日に気温があがり、まさに三寒四温。確実に春に向かっていて嬉しくなる気候でした。

この日の活動は以前より施業を進めている径路づくり班と、２月に山への入り口をふさぐように倒れていたケヤキを、板状に加工する班に分かれて行いました。

径路づくり班は、自分達、そして諸先輩方が作り上げてきた径路を、一歩一歩踏みしめながら、上に登って行きました。先月作ったばかりの径路も、しっかりと安全な道へと変わっていました。自分達が作った道が、今、まさに径路として機能している・・・そんな生の感動が味わえました。

この日も径路や杭に使えるような木は落ちていなかったので、先が折れている、曲がっている木などを中心に、5本間伐しました。このときに、川田さんのご指導もあり、初心を忘れないようにと、なぜ受け口、追い口を作るのか、木の重心はどこにあるのか等のことをしっかりと自分の中で整理しながら施業を行っていきました。

また、道の途中途中で、小原の森の成り立ちを教えていただきました。普段自分達が活動しているフィールドにもたくさんの人の思いや、背景が存在することを常に意識して、活動を続けて行きたいと思います。

ケヤキ処理班は斉藤さん、松尾さんと2月の活動時に処理したケヤキを板状に加工する作業を行いました。このケヤキは小原地域のために使ってもらうために、板状にした後は小原の方へ納入します。

普段、Forest Nova☆のメンバーは針葉樹を中心に扱っているため、いつもとは違うケヤキの処理は大変でしたが、学ぶことも多くありました。ケヤキを処理する際にまず困ったのが、その重さです。直径35cm×長さ2mほどの丸太でも、2人がかりで少し動かすのがようやくでした。次に困ったのが、その堅さです。ケヤキはその堅さから家具の指物に使われたり、家の大黒柱に使用されるほど頑丈な木だそうです。その堅さによってチェーンソーの歯がすぐに摩耗してしまい、歯を研ぐ作業に多くの時間を費やすことになりました。

今回、板にできたのは7、8枚とあまり多くはなかったのですが、ケヤキの堅さを通して、なぜ机や大黒柱など、人の生活の重要な場所で多く使用されているのか、そして道具の手入れがいかに重要かがわかりました。ちなみにケヤキの加工の際に出た切り粉はキノコを栽培する時に使用するそうです。一つも無駄なく利用できるケヤキには本当に驚かされます。

まだ、根に近い部分は処理が終わってないので引き続き来月以降も処理のほうを行っていきたいと思います。

瀬戸　智大、淺野　雅樹
（Forest Nova）

[定例活動]相模湖嵐山の森

4月15日（第三日曜日）

「彩かな桜の活動日」

４月、寒かった３月から一気に春が来た！。

色とりどりの花、そして色とりどりのグル―プの協働作業の多彩な一日でした。参加者は、ForestNova 12名、高井戸中学生１５名、初参加3名、あれこれと新しい顔ぶれが沢山参加して多分60名位。

森林整備班は午前中は、日本蜜蜂・養蜂場周りのボサ刈り。

かぶと虫牧場班はカブト虫・幼虫牧場の天地ヒックリ返し。腐葉土と堆肥をひっくり返し混ぜ合わす。その強烈なる発酵臭の中、斉藤さん、森さん、初参加の中西さん、作業に奪斗！

午後、森林班と牧場班で「山取苗」の採取。この森の山桜など根を張る美しい幼苗を周りの土ごと切り取って採取・移植する準備。望星の森の最後の頭頂部へ植えるのだとか。

住環境改善グループプロジェクトは、間伐材の搬出のために一輪車（通称ネコ）を搬出用に改良して持ち込んだ。名付けて（イヌ！）と言うらしい。伐出は通常、3人掛かりだが（イヌ）なら一人で運び出せる･・・はずだったがドッコイ、これを上手くこなせるには相当の熟練が必要と分かった。

本日の目玉はペットボトルの破砕機が、木質チップに応用できないかと進和精機の岡本さんが２トントラックで持ち込んだ。基地広場前でお披露目・試運転。少し荒いがチップ化成功！袋詰めにすれば小学生でも運搬可能。これを何に使うかいろんなアイデア募集中（何事も工夫次第ですねぇ～！？）。

では、石村さんからの提案。これを高温蒸気で蒸しあげれば、ヒノキオイルが取れる。確か、２リッターで10万円だったと思う。化粧品の原料として売れると思うが、アレルギーテストなどお忘れなきよう。森林資源の経済性創出は、当会の重要課題とのこと。

お花畑班は今日は助っ人で賑やか。2月・3月に放射線量調査メンバーが、お花畑が四目垣根づくり。黒シュロ紐で結ぶ「男結び」に苦労して薄井さんが川田さんから教わっていた。

垣根つくりの必要な竹取作業は、かなりの重労働らしく丸茂班長もバテ気味。斉藤学校長が見かねて人員召集の人海戦術。人を並べての竹流し作業で、アッと言う間に運搬完了。「やぁ、助かった。やっぱり皆んなでやると早いね！」と丸茂班長も大喜び。

なみすけの森づくりプロジェクトの中学生は間伐作業。もう熟練者なみの身のこなし。慣れたと言って油断大敵、安全には気を付けてね。

ForestNovaは、ヒノキ林の中に簡易製材機を持ち込んで板引きをやっていた。おがくずを集めて「匂い袋」にして売れないかなぁ～。

「満開の桜」に見守られながら、4月の活動日でした。

伊藤小夜子（本会、会員）

[報告１]
湘南の森活動報告

3月24日

この日は、進和学園との協働で植樹イベントとなりました。進和学園は湘南平の麓に立地し、その教育作業の一環として、市内の苗圃で生徒たちにドングリ類を集めさせてポット苗を作っており、今年はそれらの苗をヤビツの森や熱海の森で購入して使っているご縁で、今回100本の苗を寄付して頂くことになり、それらを植樹することになったのです。市役所担当課もこの申し出を快諾してくれたのです。

10時に上の駐車場に参加者が集合、ブリーフィングの後に、浅間山、中央広場、ヤブラン平の三地域に別れて、植樹を開始しました。苗は、クヌギとコナラ各30本、ヤマザクラとイロハモミジ各20本づつの計100本です。

実は、この植樹をスムースに進めるために、二日前に4名で準備作業をしました。平塚市内を流れる金目川から、長さ約1Mの笹竹を100本伐り出し、それに樹種別にカラーテープを貼り付けた上で、現地で植樹予定地を選択しながら笹竹を立てていったのです。通行者の多い遊歩道沿いにはヤマザクラとイロハモミジを、森の縁辺部にクヌギとコナラを植えてゆくのを基本方針としたのでした。準備をしたお陰で、植樹はスムースに進み、昼前には全部の苗を植林することが出来ました。

残った時間は、花を咲かせ始めたシマテンナンショウ、モクレイシ、モミジイチゴなどを観察、満開の花をつけた梅も楽しみました。今回の湘南の森・出席会員は16名とこれまでの最高の集まりを見せました。湘南の森の仕掛け人の、緑のダム・北相模の石村さんも久方ぶりに元気なお顔を見せてくれ、我らの活躍ぶりを喜んでくれました。

佐藤　憲隆（湘南の森）

[報告２]
実践、さがみはら森林ビジョン（相模原市民桜まつりに参加）

4月7日、8日

相模川上流から北部は、山梨・長野・富山・新潟と一大森林資源地に繋がり、下流は神奈川930万人に大都市が広がっており、宮ケ瀬ダムや相模湖ダムの水は、1200万人の人口の東京南部に供給されている。また、２年後には、圏央道が開通し各方面と（東関東・常磐・東北・上越・中央・東名）直結する。相模原市には、城山IC・相模原田名ICが出来る。新幹線・茅ケ崎寒川駅が近々、着工する。品川発、相模原橋本駅はリニア新線の最初の駅だ。そんなことで政令都市相模原市は、人・物・金・情報の集まる「内陸・ハブ都市」になると宣言した。

政令都市になるに際して相模原市は、津久井郡４町（藤野・相模湖・津久井・城山）を合併し市域面積は一挙に3.6倍、森林率は58％になった。そこで当会は相模原市の地の利を生かした、「内陸・グリーンハブ都市構想」を政策提言した。相模原市はの「さがみはら森林ビジョン」はこれを前提に策定した。当会は、これを具現化・事業化するために森林広報・啓発活動も推進している。

[1]　先月3月17日に「NPO法人さがみはら環境ネットワーク会議」が「さがみはら森林ビジョン・説明会」を開催した。85人もの参加で会場は溢れんばかりとなった。ここで、森林担当課長が「森林ビジョン」の概略説明と、津久井郡森林組合の坂本専務理事が、旧津久井郡の森林状況を説明した。質疑応答では、森林のCO_2固定化問題などかなり高度な情報のやり取りなどあって当市の環境問題に高さに意を強くした。

[2]　60万人以上の人出のある相模原桜まつりを毎年４月、開催しており今年で、第39回目を向かえる。当会は５年前から（昨年は3・11で中止）市役所横の第２駐車場２Ｆを借り切って森林広報を実施している。今年は、相模原市、（社）国土緑化推進機構、（公）相模原市みどりの協会の後援を得て「実践・さがみはら森林ビジョン」をテーマに、民・産・官・学：15団体の参加協力を得て4月7日～8日、桜9分咲き・晴れ日の会場で入場者数、7500人～8000人を得て開催した。特に、森の駅推進協議会（会長小沢元林野庁長官、副会長桜井農水省・林政審議会会長、酒井東大林学科教授）、相模原市林政幹部（環境経済局経済部長、環境共生部長）、市議会（野元副議長）との森林・林業に関する意見交換は有意義であった。津久井郡森林組合（相模原市）と北都留森林組合（山梨東部）と県境を繋いだ協働・連携出展は、画期的なことであった。

[3]　次いで、4月23日には、主催（公）相模原市みどりの協会が事業の具現化に向けて意見交換会を開催する。「内陸・グリーンハブ都市」に向けて胎動が始まった。来月号以降で報告する。

石村　黄仁（本会、代表理事）

[報告３]
フォレストノバ活動報告

3月24日

Forest Nova☆は３月24日に行われた小原宿本陣ライトアップに参加させて頂きました。小原宿本陣ライトアップとは、その名の通り江戸時代に参勤交代で、大名が泊まった小原宿やその周辺をライトアップするというイベントで、午後５時から８時頃まで行われました。

また、本陣の敷地内では地域の方が美味しいうどんや甘酒、豚汁やおやきなども販売していて、当日は多くの方で大変賑わっていました。

当日、Forest Nova☆のメンバーは朝早めに集まり、ライトアップに使う青竹を伐ったり、周辺古民家にのれんをかけたりライトを設置するお手伝いをさせて頂きました。

Forest Nova☆は去年に引き続き２度目の参加となるのですが、今年は小原宿本陣横の竹林や、池のあった場所のライトアップを行いました。去年も行った竹筒のライトアップに加え今年は灯籠のライトアップにも挑戦しました。そして、この灯籠に使用した木は環境教育でもお世話になった、桂北小学校の子ども達と間伐した木を使って、子ども達と一緒に作りました。初めての試みだったので、いろいろ上手くいくか不安でしたが、いざ設置して明かりをつけてみると、予想を遥かに上回る出来でとてもきれいでした。灯籠を見に来て下さった方にもとても好評で「きれいだね。」と沢山のお言葉を頂けました。

また、見に来て下さった方に「この灯籠は桂北小学校の子ども達と間伐した木を使って作ったんです」とお話ししたら、「子どもが通っている小学校でもやって欲しい。」と言って頂けたり、相模原市緑区の区長さんが活動に興味を持って下さったりと、嬉しい出来事が沢山ありました。

そして気づいたらあっという間にライトアップの終了時間になっていました。明かりを消すと真っ暗になってしまった為、最後は出来る限りの片づけだけをして、残りは翌日片づけました。

翌日はライトアップの片づけと、小原の郷で行われている朝市に参加しました。この朝市への参加も初めての試みで、小原宿本陣の焼き印の入った木の時計と根付を販売しました。
本当に朝市で私たちが販売をしてもいいのかと不安もあったのですが、地域の方たちもとても好意的に見てくれました。
木の時計と根付に関しては、「もっとこうしたほうがいいんじゃない？」と沢山アドバイスを頂けたので、今後試行錯誤しながらより良い物にしていきたいです。

Forest Nova☆として活動している地域の方との交流が増えてきて、本当に嬉しいです。
ありがとうございます。これからもよろしくお願いします。

吉崎　香代（Forest Nova）

[報告４]
間伐材の積み木で東京駅舎をつくろう、報告

3月27日～ 4月1日

準備、設営も含めての６日間、東京駅八重洲北口のイベントスペースで現在、復元作業中の東京駅舎を積み木で再現するイベントを行いました。イベントでは、高井戸中学の生徒が中心となり、上智大学アジア人材養成研究センター指導、JR東日本、同社グループの鉄道会館協力のもと、本会の積み木３万個を使用しました。

昨年夏に試作をしていたとはいえ、東京駅という日本の中心で、しかも一般参加自由というなかで、正直なところ制限時間内で完成するのかという不安もかなりありました。実際、キーになるドーム部分がなかなか積み上がらず、焦りを感じる場面もありました。しかしながら、普段から森で助け合い、声をかけながら作業をしているせいか、誰一人ネガティブな発言やあきらめといったムードもなく、壊れても壊れても淡々と積み上げてあげていく彼らに頼もしさすら感じました。夏休みの試作では、私自身かなり助言を行う場面もあったのですが、今回は、そ

のような場面もなく、中心となる生徒のとりまとめで作業が進められ、無事に完成に至りました。

　また、東京駅という立地から見学者がひっきりなしに訪れ、最初はたどたどしく説明していた生徒も気づけば、逆に声をかけるようになり、完成が近づくにつれ、彼ら自身の自信をもって説明できていたようです。

　今回のイベントでは上智大、JR、鉄道会館など多くの方の協力をいただき、無事にイベントを成功させることができました。本当にありがとうございました。

宮村　連理（本会、理事）

間伐材の積み木で東京駅舎をつくろう

NPO+大学+中学校+企業のコラボ

3万個の積み木でつくる

おまけ展示

のべスタッフ100人超でつくりあげた東京駅舎

制作中の報告冊子、６月号に同封し郵送予定です

[事務局からのお知らせ、お願い]

上智大学ASF(オールソフィアンズフェスティバル)に参加します

5月27日日曜日、上智大学の卒業生の集いであるオールソフィアンズフェスティバルに、杉並区立高井戸中学校地球環境部と参加し、大正時代の上智大学の校舎を本会の積み木で再現します。来月号で報告します。

参加にあたって：

初参加者は、9時15分までにJR相模湖駅前集合してください。服装、持ち物については、汚れても良い服装、着替え、滑らない靴　成るべく皮製手袋、万一の怪我に備えて保険証、飲料水、主食；自分の食器(お椀・お箸)

危機管理・救急対応：

危険管理・救急体制・森林ボランテイア保険の準備の他、会として可能な限りの体制を敷いていますが「怪我・事故は、自己責任」です。

NPO法人
緑のダム北相模

急がず、無理せず、楽しく、休まず、
ボチボチと・・。
そして、沢山の参加で森は、良くなる。
（台風の日は勉強会開催。１３年間、
一日も休まず“継続は力”。）

名称：特定非営利活動法人　緑のダム北相模
事務局：154-0023　東京都世田谷区若林３－３５－９
発行人：NPO緑のダム北相模　事務局　03－3411－1636
ＵＲＬ：http//www.midorinodam.jp
E-mail： info●midorinodam.jp　●を＠に変更して使用してください

協働団体：セブンイレブンみどりの基金、相模原市（市民協働推進課）、
東海大学付属望星高等学校、生命の森宣言・東京
支援団体：WWF JAPAN、イオン財団、市民社会チャレンジ基金、
神奈川県建具協同組合、JFEメカニカル、東急コミュニティ、
マルモ出版